

は し が き

発展途上国における人口移動の研究は、人口の都市集中やそれに伴う都市問題の発生、あるいは地域開発などの行政的な必要性から近年大きな関心が寄せられてきている分野である。しかしながら、人口移動のメカニズムは出生や死亡のメカニズムに比べて複雑であり、また統計データ収集の困難さもあって、人口学研究の中では最も取組みの遅れていた分野であった。しかし、最近、年齢別人口移動のパターンを出生率や死亡率のモデル化と類似の手法を用いた数学的な関数で表現するモデルの開発が進み、モデル化によるパラメータを用いた移動パターンの比較研究が可能となってきた。

本書は、アジア経済研究所が日本大学人口研究所の川邊教授を主査として昭和63年度に発足させた「年齢別人口移動の国際比較分析」研究会の成果である。この研究では、ロジャースの開発した移動モデルを日本、韓国、タイの3カ国の国内地域間の男女年齢別人口移動に適用し、人口移動パターンのパラメータの算出とそれに応じた労働力人口の構成部分を検出している。

本書の編集は、アジア経済研究所統計調査部の佐藤克彦が担当した。

平成2年3月

アジア経済研究所

統計調査部